

## スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	立命館アジア太平洋大学
整理番号	B24
構 想 名	Global Learning：大学教育の新しい地平を目指す

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>本構想は、「Global Learning:大学教育の新しい地平を目指す」ことを目的に、4つの「100」（初年次学生教育寮 100%、多文化協働学習等実施科目 100%、在学中の多様な海外経験 100%、留学生出身国・地域、常時 100 か国・地域）を目標に掲げた意欲的な取組である。</p> <p>大学として強力なガバナンス体制が構築され、目標である4つの 100 について着実に取り組み、計画に沿った取組が遂行されている。また、2016 年の AACSB 国際認証取得は、国際的な教育研究の質の保証と向上に繋がるものと評価出来る。</p> <p>目標の達成状況については、人事システムやガバナンス改革が進められ、大学評議会委員に積極的に外国籍教員を任用している。テニュアトラック制導入による教員採用計画も順調に実施されており、入試改革においては、TOEFL 等の外部試験や新たな国際標準の測定方法を導入し、入試データと入学後の成績データに基づく分析を進めるなど、他大学の参考にもなる取組が行われている。また、カリキュラム全体や大学運営等について学生と意見を交わすフォーラム「Talk with the Dean」を開催するなど、学生の声を様々な課題への対処方針に活かす取組も評価出来る。ナンバリングや GPA の導入、シラバスの英語化、混住型学生宿舎についても着実な進展が見られる。IR の実施状況も進んでおり、データ収集やアンケート回収率等も良好であると言える。教育情報の徹底した公表に関しては、スマートフォン対応など、今日の学生のニーズに合致した取組が行われている。</p> <p>一方で、当初の大学設置の趣旨と本構想の目的が同一延長線上にあるためか、本事業による取組やその効果が具体的に見えづらい印象を受ける。また、日本人学生に占める留学経験者数の増加が当初計画より進捗していない点については、更なる努力が求められる。今後の取組の質的な改善や向上を計画・実行するために、より柔軟な検討と対策が行われることを期待する。</p>